



雪印メグミルク

「酪農の未来を拓くお手伝い」

RDCD NEWSLETTER

～RESEARCH & DEVELOPMENT CENTER FOR DAIRY FARMING～

2025
10
創刊号

皆さんこんにちは！雪印メグミルク酪農総合研究所では、RDCD（酪総研の略称）ニュースレターを不定期で発行し、最新のプロジェクト情報や社員の活躍、各種報告、そして今後のイベントなど、盛りだくさんの情報をお届けすることになりました。ぜひ一読いただき、酪農総合研究所に関する情報を深めていただければ幸いです。なお、PDF版の一部情報については、ニュースレターのタイトルを選択すると詳細な記事が参照できますので、ぜひご活用ください。

ご挨拶

RDCD NEWSLETTERの創刊に寄せて

2025年5月、雪印メグミルクグループは創業100周年を迎えると同時に、私たち酪農総合研究所は創立50周年を迎えました。この記念すべき年に、我々は新たな酪農総合研究所の情報発信ツールとして「RDCD NEWS LETTER」を創刊することと致しました。

これまで築き上げられた伝統と知識を次世代に受け継ぎながら、酪総研創立時に掲げた「酪農による「健土健民」の理想の実現」をさらなる高みに導き続ける所存です。

皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

酪農総合研究所 職員一同

酪総研記念ロゴマークのご紹介



酪農総合研究所
Research & Development Center
For Dairy Farming

【酪総研新ロゴマーク】
RDCDを牛の顔に組入れて構成。R部分の黄色は、牛の耳標を基に彩色がされている。全体的に丸みを帯びた線でグループ感を創出。このデザインを研究所の新たなロゴマークとして決定した。



【50周年記念ロゴマーク】
酪総研創立50周年を記念したデザインを新たに構成。50と牛をブルーカラーで統一。雪印メグミルク・酪総研・酪農家の三位一体を表現した。このデザインを50周年記念ロゴマークに決定した。



酪農総合研究所 所長
津田 知亮

酪農総合研究所は、グループ各社や関係機関との連携を深め、持続可能な酪農経営のサポートに尽力するとともに、酪農生産基盤の維持・強化のための調査研究や経営分析等の取り組みを推進していきます。酪農乳業関係者の皆様方のご指導、ご鞭撻を心よりよろしくお願い申し上げます。

Topic 01

Dairy Japan 6月号に実証圃場記事（大樹町）が紹介されました！

3種の自給飼料で牛に無理なく収益UP！

酪総研では2013年から大樹町の村崎牧場と共同で「オーチャードグラス主体の多草種混播種」の調査研究を行ってきました。チモシーのみの牧草体系からオーチャードグラス主体にすることで「栄養価」「収量」の向上を実現しています。

本記事では、村崎氏の「基本に忠実」に実践する牧草作りの特徴が紹介されています。



村崎氏と酪総研メンバー（記事より）

Topic 02

開拓情報7月号に北里大学との共催セミナーの記事が紹介されました！

屋根に断熱パネルで暑熱対策！

2025年7月に公益社団法人全国開拓振興協会が発行する「開拓情報」に当社酪農総合研究所と北里大学との共催セミナーの開催内容（3月4日開催）が記事で紹介されました。



暑熱対策セミナーの様子（堂地氏・鍋西氏）



※PDF版はタイトルクリックで当該記事参照可能

Topic 03

令和7年度 獣医学術地区学会（北海道獣医師会）で学会発表を行いました！

酪総研は2021年から北里大学と共に酪農生産現場で共同研究を行っており、その成果の1つとして2025年8月29日に開催された令和7年度獣医学術地区学会（日本産業動物獣医学会）において、野崎則彦研究主事（獣医師）が学会発表を行いました。学会発表テーマは「酪農牛舎における低コスト測定技術を活用したメタンガス濃度のフィールド調査」であります。

反芻家畜が排出するメタンは温室効果ガスである一方、ルーメン発酵や飼養管理、さらには乳量や健康状態とも関わる重要な指標です。現場で手軽に測定できれば、発育評価や生産性向上に役立つ可能性があります。しかし従来法は高価で日常利用には不向きでした。本研究では、安価で可搬性の高い半導体式ガスセンサーを用い、酪農牛舎内および搾乳ロボットで乳牛の呼気中メタン濃度をモニタリングしました。その結果、この技術が現場での継続的な利用に十分適しており、牛舎環境管理や個体ごとの生産性評価に応用できる可能性を確認しました。現在は子牛の発育評価などへの展開も進めており、将来的な飼養管理の高度化に資する技術として期待されます。



北海道獣医師会で学会発表を行う野崎研究主事

Topic 04 酪農総合研究所 要覧を作成しました！

酪農総合研究所での事業や研究概要を皆様に分かりやすくお知らせするために新たに「酪総研要覧」を作成しました。本要覧にはこれまでの研究成果や各事業についての説明が掲載されており、一目で理解できる内容となっています。ぜひご覧ください。

職員紹介

皆様に親しみやすい記事を作成します！



副部長
越智成東



研究リーダー
柳瀬兼久



研究主事（獣医師）
野崎則彦



研究員
佐々木貴史



研究員
大山冬馬



※PDF版はタイトルクリックで当該記事参照可能

Topic 05 酪総研選書（No.94）が日本農業市場学会で「学術賞」を受賞！



酪農総合研究所では、日頃の調査・研究の成果や酪農関連の話題をもとに企画・調整を行い、デーリイマン社より「酪総研選書」として書籍を出版しています。

2024年3月に発行された「躍動する中国の酪農乳業と生乳流通」が、2025年度日本農業市場学会（7月に北海道大学開催）にて「学術賞」を受賞いたしました。

本書は、2008年メラミン事件以後、大きく変化した中国の酪農乳業について、詳細な現地調査をもとに、生乳流通の変化や中国酪農の現状をまとめた内容です。中国における酪農乳業と生乳生産構造、内モンゴルの中規模経営の特徴、大手乳業メーカーによる垂直調整の影響などについて、分かりやすく解説されています。中国の乳製品需要の高まりを背景に、今後の市場動向を知る貴重な一冊となっています。なお、本書籍の著者の1人でもある北海道大学大学院食料農業市場学研究室の清水池義治准教授は、2006年から雪印乳業の酪農総合研究所にて研究員として勤務されておりました。

<購入をご検討の方へ>

酪総研選書二次元コード→

株式会社北海道共同組合通信社のHPよりご購入いただけます。



酪総研 コラム

NO TENKIN, NO LIFE.

転勤を敬遠する傾向が強くなっているようだ。

20～30代の若い世代は7割以上が転勤を嫌がっているという。就活学生の3割以上が転勤の多い企業には行きたくないという調査結果も目にした。ライフスタイルが変化し、勤務地が頻繁に変わる事に抵抗を感じている人が多くなっているらしい。

我々昭和生まれの会社員は異動の辞令が出たら転勤するのが当たり前、転勤族という言葉があるように日本各地で仕事をしてきた。時代が変わってワークライフバランスが注目され、個人の価値観が尊重されるようになってきた。また、リモートワークや在宅勤務が増加し、出社しなくても仕事ができる環境が整ってきている。

雇用体系が変化の中で、企業の従業員エンゲージメント向上への取組みが重要視されている。転勤をきっかけに離職する社員が増えていることから、これに歯止めをかけるために転勤制度を見直す企業も出始めていると聞く。転勤は時代遅れになっていくのだろうか。私自身、北海道、東日本、西日本と10回以上の転勤、単身赴任も2回経験してきた。それぞれの地域特性があり、知識や経験を積み重ねる事が出来た。関係先の仕事相手との人間関係を築き、様々な経験が人生の肥やしになってきたと思う。

私事では各地の名所旧跡に足を運び眼福を得、酒場を探訪しほろ酔い、ご当地の味覚も楽しんできた。その土地の風土や文化に触れる事が出来たのも転勤のお陰だ。もし転勤の無い仕事に就いていたら、こんな経験は出来なかったし人生がまるで違っていただろう。今の時代、メディアやインターネットで何処に居ても様々な情報を手に入れる事ができる。

しかし、実際にその土地に住み体験する事には敵わない。転勤は必ずしもネガティブなものではなく人生において価値のある経験が出来る機会になる。私は転勤が無かったら人生の半分以上を損したのではないかと、日本全国で仕事が出来て楽しい会社員人生だったと定年退職間近の昭和生まれは願っているのである。さて、これから人生二週目は何をしようかな・・・。

（コラム執筆：M.T）

お知らせ

ミルクフェスティバルで 酪総研ブースを展覧！

9月20日（土）に雪印メグミルク創業100周年を記念して「ミルクフェスティバル in 苗穂」が開催されました。酪総研チームは搾乳体験と酪総研ブースにて日頃の研究成果や酪農についての説明を行いました。

当日ご来場した約1,200名の地域のみなさまに100年の感謝をお伝えすると同時に、搾乳体験に参加された460名を超える皆様へ酪総研について知っていただくことが出来ました。酪総研ブースでは、実際の牧草サイレージの臭いを嗅いでみたり、手で実際に触れることで、自給飼料についての理解を深めることが出来ました。



お客様に説明する越智副部長



酪農部・札幌工場・酪総研合同チーム

【RDCC NewsLetter】

所在地：〒065-0043 北海道札幌市東区苗穂町6-1-1

発行人：雪印メグミルク株式会社 酪農総合研究所 津田知亮

TEL：011-704-2131 FAX：011-704-2417

HPはこちらから！



酪農総合研究所
Research & Development Center For Dairy Farming

